

## 新たなる産学連携活動への挑戦 【佐竹 弘（専門分野：産学連携）】

FellowLink 倶楽部 2013/09/01 #2 に寄稿

大学は、教育・研究の創造の場であり、研究者や学生の自由な発想と活動を通じ、日夜、新しい研究成果が生まれている母なる大地です。その大地の活用を、国を挙げて支援し、10年の歳月が流れました。各大学の産学連携部門の充実と共に、産学連携関係者の人材育成、産学連携への社会の理解も進み、大地の活用が大企業を中心に定着しています。

しかし、大学の敷居の高さは10年来大きな変化がなく、特に中小企業での大地の活用にはハードルが高いのが現状でないかと思えます。中小企業では、技術開発においても、問題解決においても、常日頃から短時間に幅広い技術が把握できるかが大きな鍵となります。

全国の大学の研究情報はほとんどすべて国立大学法人、高専、私立大学で公表され、日々更新されています。その把握方法には、インターネット検索、JSTのJ-GLOBALなどで検索することが可能になっていますが、毎日が忙しい中小企業の技術者が短時間に情報収集することは難しいのが現状です。

各大学の産学官連携部門では、大学の使命として研究成果の利活用推進を展示会やインターネット上で常に積極的に行っています。しかし、全国の大学等研究成果情報が中小企業や本当に問題を抱えた技術者への情報伝達は十分でなく、情報による双方の付き合いのきっかけづくりに発展することも少ないのが現状です。

大学の研究成果利活用推進、特に中小企業等での活用推進には、データの集約化（研究者に負担を掛けない）、全国大学の研究者や研究成果情報、研究者の企業等との共同開発希望テーマなどを短時間に収集できる情報集約拠点の構築、研究成果の研究段階評価ができる専門家との連携、情報システムを運営する法人などの設立などが必要と考えています。

加えて、情報集約拠点と連携する信金などの地域と密着する組織、専門家人材との連携は欠かすことができない重要な要素です。

大学等の研究成果利活用推進には、次の2点が必要と考えています。すなわち、情報集約拠点の構築とその運用システム（専門家集団）、情報集約拠点と現場を結ぶ組織とその人材の連携システムが必要です。

今回、非常に無謀と思われる人が非常に多いと思われませんが、全国の大学研究情報を一元的に調査できるシステムを構築し、中小企業や中小企業を支援する組織に情報を提供する「大学等研究成果活用推進支援プラットフォーム ～母なる大地・母なる大地 大学の活用～」を設立しました。活動は、日本専門家活動協会のメンバーの協力のもと、産学連携担当理事である佐竹がボランティアで活動します。

今後、プラットフォームメンバーや活動の協力者を募集し、ボランティアで専門的知識提供、現場への情報発信者となってもらえる人材、体制が整備できれば、プラットフォームを発展させ、大学研究成果の利活用推進や中小企業技術革新支援を積極的に進めていきたいと考えています。協力者をお待ちしております。なお、活動の概要等は下記のHPをご覧ください。

◇<http://www9.ocn.ne.jp/~sangaku/main.index.htm>

ご協力・ご支援のほどよろしく申し上げます。